

## 第 10 回 BIM/CIM 推進委員会 議事要旨

場所 中央合同庁舎 3 号館 11 階インフラ DX ルーム (WEB 会議併用)

時間 15:00~17:00

議事 ①BIM/CIM の進め方について

②建築分野の WG (建築 BIM 推進会議) における取り組みについて

### 主な意見

#### 議事①BIM/CIM の進め方について

- 取組の視点が発注者目線になっており、本来の BIM/CIM のあるべき姿だと感じる。進め方として非常に良い。ロードマップについては将来の目標を明確に示すことが望まれる。
- 受発注者ともに BIM/CIM 研修等で自分の仕事に BIM/CIM の活用を取り入れることを考える議論をすることで、BIM/CIM を使おうというマインドセットにすることが大事。
- 課題の把握・改善の検討をする前に原則適用の実施状況を把握することが重要。フォローアップの手法については調査票の記入等でなく、現場の課題の収集をシステムチックにできるシステム・体制の構築を検討すべき。
- BIM/CIM は活用することが目的ではなく生産性の向上等が目的。受注者からの生産性向上に資する提案については積極的に採用頂きたい。
- 地質・測量から維持管理までの活用、4D・5D モデルについても積極的に実施して頂きたい。
- 積算について、受注者は契約に用いる官積と現場の実行予算の二重管理をしているため、建築や海外を参考に、それを連携させて管理できるようなコスト情報、仕組みを検討して頂きたい。
- 維持管理については台帳管理などの紙ベースでの情報が多く、デジタル化が望まれるため、ISO19650 に基づいた取り組み方針を検討し試行して貰いたい。
- モデル事務所の取り組みが施工段階に進んでいるものが多い。発注者としてのメリットは調査・設計段階のほうが大きいので、モデル事業の追加・入れ替えについても検討して頂きたい。

○BIM/CIM 活用の高度化についてはフロントローディングやコンカレントエンジニアリング等が重要。設計と施工をいかに近づけるかが大事であり、3 者会議を更に効果的に活用してもらいたい。

○3 次元モデル等のデータを共有し、様々なソフトウェアで高度な活用をするには中間データファイルが重要でありソフトウェアベンダーと議論することが大事である。

○数多くのファイルを数多くの階層化されたフォルダに入れて納品する替わりに、各ファイルに属性情報をメタデータとして与えるだけにして、後でファイル全体の構造を見たり、探したりするときには、メタデータに基づくビューワーで様々な見方で行う、という方法もある。これと似たような考え方が、MVD で BIM モデルから必要な情報だけを取り出して見せたり、抽出したりするというものである。ただし、MVD を作るためには、IDM や IDS を作る必要があり、これらを作るためには、用語の標準化が重要で、英米では OmniClass や UniClass などが開発され標準化されているが、日本ではまだである。

## ②建築分野の WG（建築 BIM 推進会議）における取り組みについて

○建築確認のような審査や検査は、土木においても維持管理の占用許可申請や設計の成果物の照査、発注者の検査のように多岐にわたって存在する。成果物の照査・検査は受発注者双方に多大な労力がかかっており、チェックをしてもミスが出てくる。土木分野においても、データで自動的に審査ができるよう取組みを検討してもらいたい。

以上